

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地					
専門学校 健祥会学園		平成8年4月1日	武田 英二	〒 779-3105 (住所) 徳島県徳島市国府町東高輪字天満369番地1 (電話) 088-642-9666					
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地					
社会福祉法人 健祥会		昭和54年12月19日	中村 太一	〒 779-3105 (住所) 徳島県徳島市国府町東高輪字天満356番地1 (電話) 088-642-8118					
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度				
医療	医療専門課程	理学療法学科	平成15(2003)年度	-	平成30(2018)年度				
学科の目的	学校教育法並びに理学療法士及び作業療法士法に基づき、理学療法士として必要な知識及び技術を教授し、併せて豊かな教養と人格を養い、広く社会の保健医療福祉の向上に寄与しうる有能な人材を育成する。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	取得可能な資格:理学療法士国家試験受験資格 ゲートボール3級審判員・初級パラスポーツ指導員・福祉住環境コーディネーター2級(希望者)								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		3,225 単位時間	1,920 単位時間	240 単位時間	1,035 単位時間	0 単位時間	30 単位時間
				単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率					
120人	86人	0人	0%	6%					
就職等の状況	■卒業生数(C)		38人						
	■就職希望者数(D)		36人						
	■就職者数(E)		36人						
	■地元就職者数(F)		26人						
	■就職率(E/D)		100%						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		72%						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		95%						
	■進学者数		0人						
	■その他								
	(令和6年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等		医療機関、病院							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 一般社団法人リハビリテーション教育評価機構 受審年月: 2022年3月31日 評価結果を掲載したホームページURL: https://www.kenshokai.ac.jp/profile/rehab_certification/								
当該学科のホームページURL	https://www.kenshokai.ac.jp/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)								
	総授業時数		3,225 単位時間						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		1,035 単位時間							
うち企業等と連携した演習の授業時数		30 単位時間							
うち必修授業時数		3,225 単位時間							
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		1,035 単位時間							
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		30 単位時間							
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間							
(B:単位数による算定)									
総単位数		単位							
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		単位							
うち企業等と連携した演習の単位数		単位							
うち必修単位数		単位							
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		単位							
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		単位							
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		単位							
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		1人						
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		2人						
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人						
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		2人						
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人						
	計		5人						
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		5人							

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
専門学校 健祥会学園の教育に相応しい授業科目の開設または授業内容・方法の改善・工夫を行うにあたり、それが福祉・医療の現場における新たな知識、技術、技能を踏まえた実践的かつ専門的なものとなるよう協議・検討するものである。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
教育課程編成委員会は、専門学校 健祥会学園校長の諮問に基づいて協議・検討するものとし、その結果については直接校長に答申するものとする。委員会は、業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体・職能団体・地方公共団体の役職員または学会や学術機関等の有識者、実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員等から校長が委嘱する外部委員5名以上、学内委員2名以上で構成される。運営組織図および教務委員会運営要領に従い、教育課程編成委員会の意見は教務委員会の審議に付され、学校運営委員会で承認される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
田村 修司	一般社団法人 徳島県介護福祉士会	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	①
加藤 真介	徳島赤十字ひのみね医療療育センター 徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属支援施設	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	②
若松 義明	若松こども園	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	③
佐尾山 諭	一般社団法人 徳島県作業療法士会	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	①
渋谷 律香	きたじま田岡病院	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	③
豊野 和代	特別養護老人ホーム やまもも荘	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	③
川浦 昭彦	専門学校 健祥会学園 学監	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	-
林 博子	専門学校 健祥会学園 主管	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	-

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(5月、11月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年5月28日(火) 14:30～16:00

第2回 令和6年11月27日(火) 13:30～14:25

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

令和6年度も引き続き国家試験を100%合格することができた。国家試験の結果から、本学科のカリキュラムおよびシラバス、また学習方法は概ね問題なく実施できていると判断できる。令和5年度より新たに福祉住環境コーディネーター2級、初級パラスポーツ指導員の資格取得が可能となるカリキュラムが開始され、複数名が受験しているが、合格者は少ない。また、パラスポーツのボランティア活動にも参加する学生もみられるようになった。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

臨床実習指導者の責任と指導の下、偏りなく、各疾患・各病期・各年齢層の患者について、身体的・心理的・社会的状況を把握し、理学療法を行う。臨床実習は理学療法学科の「教育」の一環として行われるものである。臨床実習は学内での学習を基盤として、臨床という場でなければ学習できない内容①臨床現場での理学療法士・医療従事者としての適性について、②臨床現場での理学療法評価の正確性、③臨床現場での治療計画の立案、④臨床現場での治療の実施、⑤臨床現場での理学療法に関する基礎知識、⑥臨床現場での記録及び報告の作成・提出・発表などを習得するために行われるものである。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

臨床評価実習：患者の情報収集・評価計画立案・評価実施・問題点抽出・目標設定までの評価プロセスの実施と理解を目的とする。

臨床総合実習：臨床評価実習に加え、治療計画を立案し、その計画を基に適切な治療を実施できる能力を身につける。実習の指導方法と実習学修成果の評価：毎年開催する臨床実習指導者会議にて、臨床実習の手引きを配布し説明を行う。手引きには①臨床実習期間および目標、②各実習の学習目標、③臨床実習の進め方、④基本的技術の習得に関する指導事項、⑤臨床実習指導上の留意点、⑥実習生への課題と評価、⑦休日・欠席等の取り扱い、⑧臨床実習の履行等が記載されており、判定基準についても記載されている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
見学体験実習	3. 【校外】企業内実習 (4に該当するものを除く。)	医療・福祉の現場を見学することにより、医療従事者としての規律の遵守と、その臨床実習施設における事業体系や目的およびリハビリテーションチームとしての役割を理解することを目的とする。	阿南医療センター、井上病院、兼松病院、鴨島病院、川島病院など30施設
基礎評価実習	3. 【校外】企業内実習 (4に該当するものを除く。)	見学体験実習に引き続き臨床での理学療法を見学体験し、のちの臨床評価実習の準備となるように、より専門的な技術について体験する。	いこいの家 鳴山荘、長寿園、平成アムニティ、名月苑、明和苑など29施設
臨床評価実習	3. 【校外】企業内実習 (4に該当するものを除く。)	理学療法士としての適性能力や習得した基礎知識の確認。理学療法評価学の実施とその結果の記録、目標の設定を的確にすることを目標とし、理学療法評価とプロセスと基本的評価技術を系統的に経験し、障害評価の理解と実践を目的とする。	阿南医療センター、吉野川医療センター、兼松病院、鴨島病院、川島病院など32施設
臨床総合実習	3. 【校外】企業内実習 (4に該当するものを除く。)	基本的な評価および治療・指導等を実践することができる。理学療法に関係する問題を解決するための能力として、理学療法プロセスを的確に展開することができる。専門職としての適切な態度と習慣を身に付ける。	阿南医療センター、稲次病院、江藤病院、吉野川医療センター、川島病院など32施設
発達障害系理学療法	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	脳性麻痺を評価・治療する上で必要な正常発達や、姿勢トーンを理解し、実際に体で感じる。それを一つの基準として病的な状態について解説し、治療手技では基本的な援助方法を実技にて学習する。	特定非営利活動法人あかねの和徳島赤十字ひのみね総合療育センター

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

「専門学校 健祥会学園教員研究・研修に関する規定」に基づき、研修は教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予測される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第61回全国リハビリテーション医学会学術集会	連携企業等:	日本リハビリテーション医学会
期間:	令和6年6月13日～6月16日	対象:	リハビリテーション関連職
内容	リハビリテーション医学についての最新の最新の知識と技術を学び、学生教育に還元する。		
研修名:	全国高校野球選手権大会及び選抜高等学校野球大会運営・メディカルサポート	連携企業等:	アスリートケア事業部
期間:	令和6年8月および令和7年3月	対象:	アスリートケア会員
内容	高校野球大会参加選手の傷害予防とその啓発活動を行っている。この活動に参加し体験したことを学生教育に還元する。		
研修名:	第11回日本予防理学療法学会学術大会	連携企業等:	日本予防理学療法学会
期間:	令和6年11月9日～10日	対象:	理学療法士
内容	予防理学療法に関する全国学会。研究活動に精通する学会であり、専門分野において必須の学会である。		
研修名:	第11回日本地域理学療法学会学術大会	連携企業等:	日本理学療法士協会
期間:	令和6年11月16日～17日	対象:	理学療法士
内容	地域理学療法最新の取組みと今後の展開を学び、学生に還元する。		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	第37回 教育研究大会・教員研修会	連携企業等:	全国リハビリテーション学校協会
期間:	令和6年8月30日～31日	対象:	リハビリテーション関連職
内容	本学園の教育方法改善のため、他養成校の取組みについて情報集を行う。		
研修名:	予防理学療法セミナー・ワークショップ	連携企業等:	日本予防理学療法学会
期間:	令和6年8月20日他	対象:	理学療法士
内容	予防理学療法等に関するセミナー。研究法や最新の知見を学ぶことができる。		
研修名:	第7回 EDIX(教育 総合展)関西	連携企業等:	EDIX実行委員会(企画運営:RX Japan株式会社)
期間:	令和6年10月2日～4日	対象:	一般
内容	本学園の教育方法改善のため、最新のIT教育についての情報収集を行う。		
研修名:	DNSエクササイズコース パート1	連携企業等:	SASS Japan
期間:	令和6年12月	対象:	トレーニング関連
内容	DNSの根幹である発達運動学の基礎理論から始まり、評価・測定と基本的なエクササイズを学ぶ。		
研修名:	第52回四国理学療法士学会	連携企業等:	日本理学療法士協会
期間:	令和6年11月23日～24日	対象:	理学療法士
内容	四国の理学療法士により、各分野別に研究や症例について演題発表が行われる。		

(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	第62回日本リハビリテーション医学会学術集会	連携企業等: 日本リハビリテーション医学会
期間:	令和7年6月12日～6月14日	対象: リハビリテーション関連職
内容:	リハビリテーションについての最新の知識と技術学び、学生教育に還元する	
研修名:	第60回日本理学療法学術研修大会	連携企業等: 日本理学療法士協会
期間:	令和7年5月31日～6月1日	対象: 理学療法士
内容:	最新の理学療法についての知識と技術について発表や講演などが行われる。	
研修名:	第2回認定スクールトレーナー制度養成講習会	連携企業等: 運動器の健康協会
期間:	令和7年5月11日～7月12日、令和7年8月2日～3日	対象: 理学療法士
内容:	児童生徒等の運動器の健康増進と健全な成長・発達に寄与する担い手の育成	
研修名:	全国高校野球メディカルサポート	連携企業等: アスリートケア事業部
期間:	令和7年8月～9月、令和8年3月	対象: アスリートケア会員
内容:	高校野球大会でのサポート活動	
研修名:	第12回日本地域理学療法学会学術大会	連携企業等: 日本理学療法士協会
期間:	令和7年10月11日～12日	対象: 理学療法士
内容:	地域理学療法最新の取組みと今後の展開を学び、学生に還元する。	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	DNS A コース	連携企業等: MTI TOKYO
期間:	令和7年6月7日～6月8日	対象: 理学療法士
内容:	動的神経筋安定化・発達運動学的アプローチ (DNS)を学び、臨床・学生教育に還元する。	
研修名:	第14回日本理学療法教育学会学術大会	連携企業等: 日本理学療法教育学会
期間:	令和8年1月10日～11日	対象: 理学療法士
内容:	養成校教育・臨床実習教育・卒後教育等に関わる理学療法士により、様々な経験や知識の情報提供が行われる。	
研修名:	第5回(2025年度)理学療法士作業療法士言語聴覚士専任教員養成講習会	連携企業等: 全国リハビリテーション学校協会
期間:	令和7年12月1日(月)～令和8年2月18日(水)	対象: 理学・作業・言語聴覚士
内容:	講習会カリキュラムを受講	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は、関係団体、同窓会、保護者及び教育に知見を有する者から校長が委嘱する委員により構成される。委員会は、自己評価の進捗状況に応じ次年度の計画策定までの間に1回以上開催するものとする。教職員は、学校関係者評価の結果を活用し、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に継続的に努めなければならない。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動・学生指導等
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

入学者の学力不足に対して早期に対応を始めなければならない、国家試験の受験率及び合格率からは教育効果が認められる、とご意見をいただいた。

入学生の確保について、県外に視野を拡張した広報活動は可能性があるのではないか、とご意見をいただいた。新たな取組を行い、学生募集体制を強化、継続する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
加藤 真介	徳島赤十字ひのみね医療療育センター 徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属支援施設	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員
田村 修司	一般社団法人 徳島県介護福祉士会	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員
若松 義明	専門学校 健祥会学園後援会	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	保護者
渋谷 律香	専門学校 健祥会学園同窓会	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	卒業生
樽見 義	前 社会福祉法人 鴨島ひかり会 理事	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.kenshokai.ac.jp/disclosure>

公表時期: 令和7年6月17日

授業科目等の概要

(医療専門課程 理学療法学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			人間関係論	人間関係論とはなにか、一般的人間関係と医療従事者の人間関係について学び、よりよい人間関係の構築方法を学ぶ。	1・前	30	2	○	△		○		○		
2	○			ユニバーサルスポーツ	ゲートボールをスポーツとしてだけでなく規律を重んじ、人々に接する時の接し方を含めた授業とする。地域の高齢者とゲートボール交流大会を行い話し合いの場を持つ。	1・前	30	2	△		○	○		○	○	
3	○			情報科学	現代社会において、コンピューターの利用は欠かせず、機器の発展と同じく利用率も向上している。その為、本学で導入しているタブレットの使用方法を始めOffice系ソフトの基本的使用について課題を交えながら学ぶ。	1・前	30	2	△	○		○		○		
4	○			健康増進科学	患者、もしくは利用者を対象としたとき、理学療法士はその身体を使い、自らの理学療法を施行する。この講義では自らの身体を使い、運動を処方し、実践する。	1・後	30	2	△	○		○		○		
5	○			英語コミュニケーション	医療に必要な英語コミュニケーションを演習にて学ぶ。	1・前	30	2		○		○			○	
6	○			総合科学	生物が「生きている」とはどのようなことなのかを考えることで、医学の基礎となる生理学や解剖学の学修の基盤を創る。また、コミュニケーションの一手段となる国語表現などの基礎について学ぶ。	1・前	30	2	○	△		○			○	
7	○			保健社会行動学	社会構造や関係が健康関連行動や健康生成に影響するメカニズムについて学習する。	1・前	30	2	○	△		○			○	
8	○			解剖学Ⅰ	解剖学の全体像を示し、理学療法士と作業療法士に必要な解剖学について学び、人体の各臓器や骨格、関節、神経・筋の構造や特徴についての知識を身につける。	1・前	90	3	○			○		○	○	
9	○			解剖学Ⅱ	基礎となる解剖学Ⅰで学んだ知識を国家試験対策、臨床の現場でどのように生かすか、復習をしながら理解を深める。	1・後	30	1	○	△		○		○		
10	○			生理学Ⅰ	個々の器官や組織の働きを理解し、生体において統合された適切な生命現象が発現される仕組みについて学修する。	1・前	60	2	○	△		○		○	○	
11	○			生理学Ⅱ	生体の正常な生理的機能を理解する。個々の器官や組織の働きを理解し、生体に統合された適切な生命現象が発現される仕組みについて学修する。	1・後	60	2	○	△		○		○	○	
12	○			運動学Ⅰ	人体の解剖と生理に関する基礎知識を習得し、骨・関節の構造と機能をどのように生かしているか理学療法に應用できるよう理解を深める。	1・後	60	2	○			○		○	○	
13	○			運動学Ⅱ	人の動作や運動に関わる人体の解剖学的構造と生理学的機能、生体力学的変数と臨床上的問題との関係を習得し、理学療法に應用できるよう理解を深める。	2・前	30	1	○			○		○	○	

授業科目等の概要

(医療専門課程 理学療法学科)																
必 修	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択							講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
14	○			人間発達学	人の心身を胎児期から老年期まで概観し、成長の質的变化の過程について学ぶ。特に、身体運動の獲得を中心とし人間発達について探求する。	1・後	30	1	○			○		○		
15	○			病理学	病気の原因、発生の仕組み、経過、病気が辿る最終的な結末(転帰)といった病気の本態に関する基礎を学ぶ。	1・後	30	1	○			○			○	
16	○			一般臨床医学Ⅰ	臨床に関する基礎知識として、内科系・外科系で頻度の高い疾患の概念、病因、症状について学ぶ。	2・前	30	1	○			○			○	
17	○			一般臨床医学Ⅱ	臨床に関する基礎知識として、内科系・外科系診断法及び治療法についてや救急救命医療について学ぶ。	2・後	30	1	○			○			○	
18	○			内科学Ⅰ	内科領域の種々の疾患についての病因、病態生理、身体機能や生命予後などについて学ぶ。	2・前	30	1	○			○			○	
19	○			内科学Ⅱ	内科領域の種々の疾患(免疫・血液・神経など)についての病因、病態生理、診断、治療などについて学ぶ。	2・後	30	1	○			○			○	
20	○			神経内科学	神経疾患の原因と病態生理を理解するとともに、診断と治療、リハビリテーションについて学ぶ。	2・前	30	1	○			○			○	
21	○			脳神経外科学	脳血管障害や脳損傷に代表される脳神経外科領域の病態生理、診断、治療、リハビリテーションの基礎を学ぶ。	2・後	30	1	○			○			○	
22	○			精神医学Ⅰ	臨床精神医学の知識を深め、病気の原因、診断方法、治療、患者とのコミュニケーションの取り方、信頼関係の築き方について学ぶ。	2・前	30	1	○			○			○	
23	○			リハビリテーション工学	リハビリテーションの効率化や介護人材の不足等を背景に介護ロボットや医理工連携について学ぶ。	1・前	30	1	○			○			○	
24	○			整形外科Ⅰ	整形外科領域では運動器に障害を呈する疾患を取り扱う。様々な疾患を機能解剖学とともに学ぶことにより、整形外科領域におけるリハビリテーションの理解を深める。	2・前	30	1	○			○			○	
25	○			整形外科Ⅱ	整形外科的疾患の基礎と臨床を理解し、リハビリテーションの必要性を学習する。	2・後	30	1	○			○			○	
26	○			老年医学	PT,OTとして働く場合にも高齢者を治療することが多くなる。高齢者に多い病気と病態について学ぶ。	1・後	30	1	○			○			○	○

授業科目等の概要

(医療専門課程 理学療法学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
27	○			小児科学	理学療法における専門基礎知識として、小児の成長と発達の特徴、及び新生児を含む小児特有の疾病を中心に病態、診断、治療について系統的に学ぶ。	2・前	30	1	○			○			○	
28	○			臨床心理学	臨床心理学に繋がる一般心理学領域の「人格・適応」分野から特に「性格」に焦点を当て、性格の構造、性格の発達、性格検査に関する基礎的な知識を学ぶ。	1・後	30	1	○			○				○
29	○			リハビリテーション医学	生命倫理、特に医療倫理に関わる事例・課題を通して、医学的基礎知識を学び、医療をよりよく実践できる姿勢・態度を身に付ける。	1・前	30	1	○			○			○	○
30	○			リハビリテーション概論	障害についての捉え方、自立支援、ノーマライゼーションなどを基盤としたリハビリテーションの基本的な考え方、保健・医療・福祉の連携を学ぶ。	1・前	30	1	○			○				○
31	○			地域保健医療福祉論	国際的な医療・保健・福祉・リハビリテーションのトピックスなどについて教授し、見聞を広める。また日本における医療・保険・福祉の制度を諸外国のそれらと比較し、世界のなかの日本についても考えを深める。	1・後	30	1	○	△		○			○	○
32	○			社会保障経済学	わが国の社会保障制度を理解し、経済との関連を学ぶ。	1・後	30	1	○			○				○
33	○			理学療法概論	医療・福祉における理学療法の位置づけ、対象、業務内容を学び、さらに実際の業務に直結する管理・運営について学ぶ。	1・前	30	1	○			○			○	
34	○			基礎理学療法Ⅰ	理学療法学の基礎知識について広く学び、理学療法全体の概要をつかむ事を目的とする。	1・通	90	3	○	△	△	○			○	
35	○			基礎理学療法Ⅱ	基本的な評価技術を学び、学んだ知識の確認を実習形式の授業で確認する。理学療法士としての適性能力や必要な基礎知識について確認する。	2・前	30	1	○			○			○	
36	○			基礎理学療法Ⅲ	理学療法評価で抽出した問題点について、運動療法を中心に治療技術を理解する。代表的な疾患に対する治療技術についても理解する。	2・後	30	1	○			○			○	
37	○			理学療法マネジメント論	保険、医療、福祉に関する制度の理解、組織運営に関するマネジメント能力について学ぶ。	3・前	15	1	○			○			○	
38	○			理学療法臨床教育論	リハビリテーション・チームの充実に伴い、管理と生涯教育システムに伴う教育的視点について学ぶ。	3・前	15	1	○			○			○	
39	○			理学療法評価Ⅰ	理学療法士に必要な理学療法評価法の基本的な考え方と知識および技術について学ぶ。	1・通	90	3	○		△	○			○	

授業科目等の概要

(医療専門課程 理学療法学科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			理学療法評価学Ⅱ	臨床に必要な評価法と触診の技術および評価結果の統合と解釈・考察等の書面の作成と症例を提示しての疑似レポート作成を行う。	2・前	60	2	○		△	○		○		
	○			理学療法評価学演習	基本的な評価技術を学び、学んだ知識の確認を実習形式の授業で確認する。理学療法士としての適性能力や必要な基礎知識について確認する。	2・後	30	1	△	○	△	○		○	○	
	○			基礎理学療法治療学	理学療法の基本的治療方法について講義と演習を行う。また、理学療法の対象となる代表的な疾患についての治療の考え方や実施方法について学ぶ。	1・後	30	1	○			○		○		
	○			神経系障害理学療法学	神経筋疾患と高次脳機能障害の病態を理解すると共にその理学療法の評価及び治療技術について学ぶ。	2・通	60	2	○			○		○		
	○			筋骨格系障害理学療法学	整形外科疾患について理学療法士に必要とされる知識の習得とその具体的な治療法について学ぶ。	2・通	60	2	○		△	○			○	
	○			内部障害系理学療法学	循環器疾患・呼吸器疾患・代謝疾患などの内部障害についての病態理解と、基本的な理学療法士としての役割と方法について学ぶ。	2・通	60	2	○			○		○	○	
	○			老年期障害理学療法学	多様な疾患を合併・既往としてもっている高齢の症例に対する知識を身につける。	1・後	30	1	○			○		○		
	○			発達障害系理学療法学	脳性麻痺を評価・治療する上で必要な正常発達や、姿勢トーンを理解し、実際に体で感じる。それを一つの基準として、病的な状態について理解し、治療手技では基本的な援助方法を実技にて学習する。	2・前	30	1	△	○	△	○			○	○
	○			スポーツ障害理学療法学	スポーツ理学療法についての知識を深めるため、実技を中心に授業を行う。	1・後	30	1	○	△		○		○		
	○			物理療法学	物理療法の歴史と役割を理解し、代表的な物理療法の方法と効果・適応・禁忌などについて学ぶ。	2・通	60	2	○		△	○		○		
	○			義肢装具学	理学療法に必要な各種装具及び義肢の種類や機能・構造、使用目的、適応について学ぶ。	2・通	60	2	○	△	△	○			○	
	○			日常生活活動学	各疾患に対して、日常生活に必要なADLの評価を実施し、ADL動作獲得に必要な知識・技術を習得する。	2・通	60	2	○	△		○		○		
	○			臨床理学療法学演習Ⅰ	これまでに学んだ評価技術の確認を、実習形式の授業で確認する。理学療法士としての適性能力や必要な基礎知識の確認。	2・後	30	1	△	○		○		○		

授業科目等の概要

(医療専門課程 理学療法学科)																
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携	
								講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
53	○		臨床理学療法 学演習Ⅱ	臨床実践力の向上のため、理学療法に必要なより 応用的な知識と技術について学ぶ。	3 ・ 後	60	2	△	○		○		○			
54	○		臨床理学療法 学特論	模擬患者によるグループ学習を取り入れ、問題解 決力および全体像の把握を促す。実習後には、実 習経験を共有し、事例などを通じた理学療法の役 割の理解を深める。	3 ・ 後	30	1	○	△	△	○		○	○		
55	○		地域理学療法 学総論	地域リハビリテーションの概念を中心に理解し医 療保険制度とともに、介護保険制度や身体障がい 者福祉制度など関係制度を含め理解する。	2 ・ 前	30	1	○			○		○			
56	○		地域理学療法 学各論	地域理学療法・地域リハビリテーションの実際 に触れ、様々な障がいに対する理学療法や理学療法 士の関わり方を理解する。	2 ・ 後	60	2	○	△		○	○	○	○		
57	○		見学体験実習	臨床実習指導者のもとで、理学療法士の業務を見 学し、将来理学療法士として患者に接する際に必 要な基本的知識・技術・態度を身につける。	1 ・ 前	45	1				○		○	○	○	
58	○		基礎評価実習	臨床実習指導者のもとで、理学療法士の業務を見 学し、将来理学療法士として患者に接する際に必 要な基本的知識・技術・態度を身につける。	1 後 ・ 2 前	90	2				○		○	○	○	
59	○		臨床評価実習	学内で習得した理論と技術を臨床の場で症例に応 用することにより、主に理学療法評価について関 連した内容を学ぶ。	2 ・ 後	135	3				○	○	○	○	○	
60	○		臨床総合実習	医療・福祉分野における理学療法士としての臨床 実践力を高める。	3 ・ 前	765	17				○	○	○	○	○	
合計					60 科目			104単位 (3225単位時間)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	学則に定められた授業科目の履修認定を受け、かつ卒業試験に合格した者	1学年の学期区分	2期
履修方法：	定められた授業科目（講義、演習、実技、企業との連携による現場での実習）を受講し、出席状況、試験、論文、報告書、発表、作品その他を総合して認定を行う。	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。